

## I 道徳科 研究テーマ

道徳的価値に向き合い、  
自己の生き方をより深く、より豊かに見つめ直す子どもを育む学び

## II 研究の重点

自分事として捉えたことを、仲間とともに比較・検討できる授業づくりの手立て

## III 2年次の成果と課題

### 1 成果

#### (1) 議論のテーマを多面的・多角的に見つめる

多様な道徳的価値に触れるよさを感じながら、自分のものの感じ方・考え方と対峙した上で、他者から刺激されたり、自ら試行錯誤したりすることができるように、話合いの仕方を工夫してきた。例えば、演劇的な手法を用いて話合いを行う場面を設けることで、それぞれの子どもが登場人物になり切りつつも、子どもたち自身の意見を発信し、議論する姿が見られるようになった。そのことが、一つの教材に対して、多様な道徳的価値の観点から自分の意見をもつことがにつながった。

活用してきた演劇的手法の中でも、特に有効だったものとして、ホットシーティングが挙げられる。ホットシーティングを用いた話合いでは、周りの子どもが質問したことに対し、登場人物になり切った子どもがその質問に答えることによって、議論のテーマに基づいて質問内容を考えた子どもも、どのように回答するのか考えた子どもも、それぞれが感じた道徳的価値の理解を深めることができた。

さらに、話合いを通して獲得した自分の意見について、葛藤のトンネルの活動を通し、学級全体で議論する場面を設けた。これらの活動を組み合わせながら行ったことで、議論のテーマを多面的・多角的に見つめる子どもたちの姿が見られた。演劇的手法を通して、議論すべき事柄を明確にしたことが、遠慮せず、多様な立場から意見を述べる場づくりにつながったと考える。

#### (2) 道徳的価値を自分事として捉える

議論のテーマを自分事として捉え、納得できる道徳的価値観を見いだすことにも、演劇的手法が有効に作用していた。

例えば、学級全体でホットシーティングを行った場面では、複数の子どもたちから質問を受け、応答することを繰り返したことで、登場人物になり切った子どもが、登場人物の言葉を使って学級全体に問い返す姿が見られた。登場人物が感じた葛藤を自分事として捉え、登場人物という他者の姿を借りることで、自分の言葉を語るすることができたと考えられる。

また、子どもたちが見いだした道徳的価値を窓口にして、「これまでの自分」「今の自分」「これからの自分」を視点とした省察の場を設定してきた。授業の初めに、子どもたちが選んだ立場の意見について、「自分の意見を持ち、グループでの話合いを経た上で、学級全体での話合いを行う」など、絶えず吟味し直す場面を設けたことで、子どもたちがより納得できる意見に更新するような学習活動の流れができたと考える。

### 2 課題 子どもたちに思考の流れを委ねる

今年度の実践・研究では、一つの教材に対し、多様な道徳的価値を感じられるようにしたり、演劇的な手法を組み合わせながら活用したりすることで、提示されたテーマをより自分事として捉えられるような授業づくりをしてきた。そうすることによって、子どもたちの思考は、教師が想定していなかったような道徳的価値を見いだすようなこともあった。

子どもたちの多様な考え方を柔軟に受け止めることが、2年次の課題となった。それぞれの「気付き」のタイミングがあることを信じ、教師の想定の中にはめ込んで授業ではなく、時には思考の流れをより子どもたちに委ねられるような授業づくりをしていきたい。